

BOLD MOTOR SPORTS #55

2009 Super Taikyu Race Report Rd.2 スポーツランド SUGO 400km RACE



開催日: 2009年 5月10日 (日)
開催サーキット: スポーツランドSUGO (1周3.70425km)
天候: 公式予選日: 決勝日: 曇り/ドライ
参加台数: 26台 ST1×5台、ST2×9台、ST3×7台、ST4×5台
決勝出走: 26台 ST1×5台、ST2×9台、ST3×7台、ST4×5台

公式予選: 総合20位 クラス 1位
決勝結果: 総合12位 クラス 1位



- A ドライバー 谷川達也 (Tanigawa Tatsuya)
- B ドライバー 松井孝充 (Matsui Takamitsu)
- C ドライバー 河村直樹 (Kawamura Naoki)



■ QUALIFY 公式予選、決勝 5月 10(日)
スーパー耐久400キロ

予選結果

Aドライバー谷川達也 1分34.850秒

Bドライバー松井孝充 1分34.757秒

Cドライバー河村直樹 1分36.615秒

結果:総合20位、クラス1位



決勝結果

総合12位 クラス1位

21ポイント獲得

シリーズランキング

ST-4クラス 1位

ランキングポイント合計 40P



チーム代表兼監督コメント:小林春基 チーム総監督

スポーツランドSUGOではマシンのSETが完璧でないまま予選を迎える事となりましたが、ドライバーにカバーして頂きポールポジションを獲得！予選は気温も上がり路面温度50度とかなり厳しい状況の中、谷川選手クラス2位、松井選手クラス3位、合計タイム3分09.607秒で総合20位クラス1位で決勝を迎える事となった。

スタートはAドライバー谷川選手、スタート後ストレートスピードの速い62号車インテグラに抜かれ二位となり95号車背後のSPOON S2000 に追われながらピット内では緊張ムードが続く中Bドライバー松井選手に交代、素晴らしいピット作業で再び一位のポジションとなる。好調な走りを見せ順位は持続していた。64周目セーフティーカー導入！作戦変更しその直後Cドライバー河村選手にバトンタッチ。そのまま順位は変わらず、その後も二回セーフティーカー導入されましたが一位をキープしながらチェッカーを受ける事が出来ました。

スーパー耐久に参戦して三年目、念願の優勝を飾ることが出来ました。初戦もてぎに続きまたもやポール獲得、そしてポールのトゥーウィン！スポンサー様方、関係者皆様、そして応援して頂いている皆様に最高のプレゼントが出来た事と喜んでおります。初優勝、そして二戦続けて表彰台に立てた事はチームにとって最大の活力になると信じております。

次回第三戦目は鈴鹿サーキット 6月6日～7日、500キロ耐久レースです。全力で戦いますので宜しくお願い致します。BOLD MOTOR SPORTS チーム及びBOLD WORLD Absolute レジェーロクラスは確実に進化しています。



ドライバーコメント:谷川達也 選手

開幕戦ではポールポジションから2位表彰台を獲得して上昇気流のまま挑んだ第2戦。気合いが入りましたが、昨年の菅生のレースではペースが上がらず下位フィニッシュだったので不安もありながらの練習走行となりました。ダンパーの減衰調整などの微調整でマシンバランスは改善する事ができ、松井選手や河村選手も十分に練習走行ができる時間を設ける事ができました。ただ、不安だったのは3セッションあった練習走行では1度もトップタイムを記録する事ができなかったのとストレートスピードが他車と比べて若干劣るという点でした。

予選は、コースインするタイミングを遅らせてタイムアタックを行いました。計測1周目はクリアラップでしたが2周目は他車にラインを塞がれタイムアップに失敗しました。また、リアタイヤをこのレースウィークで初めてニュータイヤに変更した事でバランスが崩れ、昨日の練習タイムより遅いタイムしか記録する事ができませんでした。それでも、このセッションは2番手で終えることができました。Bドライバーの予選前に、ニュータイヤでのマシンバランスを伝え、松井選手がアタックに入りました。松井選手はベストタイムを更新してタイムアタックから戻ってきました。このセッションは3番手でしたがA・Bドライバー合算タイムでは、トップとなり2戦連続ポールポジションを獲得する事ができました。

決勝は、スタートを担当する事になりました。序盤はトップをキープしましたが、ストレートスピードが速い62号車に抜かれて2位で周回を重ねました。背後には95号車が迫っていましたが抜かれる事もなく予定通りの周回でピット作業となり松井選手がピットアウトしました。ピット作業も素晴らしく1位でコースに復帰しました。松井選手も淡々と周回を重ねていましたが、コース上にトラブル車両が発生したためSCカーが導入されました。全車がスロー走行しているタイミングでピット作業を行う事になり河村選手に交代して1位のままピットを離れる事に成功しました。チェッカーまでに再びSCカー導入やコースアウトもありましたが、2位に大差をつけての悲願の初優勝となりました。

今回のレースは、マシンに絶対的な速さはなかったのですが、チームワークの勝利だと思っています。前回のレースでは、勝てるレースを落としているのでみんな気合が入っていたと思います。この勝利はスタッフやメカニックのおかげです。特に決勝中のピット作業は素晴らしいものでした。次回のレースは、追われる立場となります。心地良いプレッシャーなので第3戦も表彰台を狙います。

ドライバーコメント：松井孝充 選手

フリー走行

まずは岡山でテストをしたダンパーのイメージでサーキットに入りました。その中で最初に谷川さんがセットアップを進めてくれたので谷川さんのコメントとおりの車のフィーリングでした。その中でフロントが沈んだままコーナーに入っていくのでアンダーステアでそれを出さないようにドライビングしていました。そうするとブレーキングを手前にしないといけませんでした。だんだんとセットアップが進むにつれてマシンは乗りやすくなってきました。

予選に向けてはいい感じで終われたので良かったです。

予選

谷川さんから聞いたイメージですごくアンダーステアなイメージでいたのですが、弱アンダーくらいでした。

その中でクラスポールという結果はチーム全体で取れたポジションだと思います。

マシンの一発の速さは前回のもてぎから証明できたのですごく良かったです。

決勝

ロングのペースは少し不安があったのですが、谷川さんが前のマシンに食らいついてくれたことで、ピット内の雰囲気の良い緊張感が感じました。そのおかげでピット作業がとても早く自分のスティントはとても余裕が持てました。セーフティーカーが出た時にすばやく指示をくれたのでまた2位以下にマージンを築くことが出来ました。

その後は河村さんが後続とのギャップをコントロールして、チェッカーまでマシンを運んでくれました。

こういう荒れたレースで的確な指示をくれたチームにも本当に感謝しています。

「チーム全体で勝つということは」というのを思い知らされたレースでした。

本当にありがとうございました。

次回の鈴鹿も厳しい戦いが予想されますが、チーム一丸となっていきます！

ドライバーコメント:河村直樹 選手

第二戦SUGOのレースはメカニックさんの素晴らしいピットワークでトップに立ち、監督・メカニックさんの素晴らしい判断でマージンを広げることが出来ました。

チームスタッフの皆様に感謝致します。

次の第三戦鈴鹿サーキットも優勝目指してがんばります。
引き続き御声援をよろしくお願い致します。

